

子どもの多様性に順応した社会を望む会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和5年9月16日（土）18時～18時40分

会 場 能美市市民協働まちづくりセンター「のみにこ」

参加者数 4人

○はじめに

【市長】今日、この場を迎えるにあたって教育委員会ともいろいろと意見交換を重ねていただいて、今日を迎えられたと聞いている。私としても直接皆さんからお話をお伺いして、市としてどういうことができるのかをお話をさせていただける、そういう機会にしたいなと思っている。

○通級クラスの対応について

【市長】通級のクラスでは少人数での対応が実際に始まっていて、先生が対応している。ただクラスの人数が限られていて、学年を跨いで先生が接していることもある。そこを何とか改善してほしいというお話は私も聞いている。

【参加者】実際にその中で見てもらえない。クラスの中で手のかかる子に先生が付いてしまって、おとなしくしている子が学習しても、内容がわからずただそこで過ごしている現実があると聞いている。通級クラスも人数が増えてきて、その中でも子どもによって違いがある。おとなしい子は先生がなかなか来てくれない、そうなりとやっぱり学校行っても楽しくない、勉強も楽しくない。そうなりと疲れてしまって学校に行けなくなる。

【市長】一度その実態を把握する。以前にも今回と同じように保護者の方とお話をしたことがある。その時にお聞きしたのは、子どもによって違いがある中で一緒に扱われていて困っているからそこを何とか分けて欲しいと。ただ、そこはいろんな事情があって、なかなか個別の対応ができていない実態がある。それを今どうしていこうか、ということは始まっている。

○HSPなどの繊細な子どもへの対応について

【参加者】HSPという繊細な子の対応については、学校と発達支援センターも連携して対応してくれ、リモート授業などの対策を取ってくれている。ただリモートだけではなかな

か学習が追いつかない。授業がわからなくなっていてリモートも嫌いになってしまう。学校の先生は良くしてくれているがなかなか難しい現状がある。できれば学校の中で、繊細な子どもだけの少人数のクラスを設けることはできないかと思っている。

自宅学習だけではなかなか追いつけない。社会参加の経験不足にもなっている。個人的には、絶対学校に行かなければいけないと思っていない、ただ勉強の遅れと社会参加の機会が奪われるところが心配だ。

【参加者】現状は、先生が1人常駐してくださっているクラスにいろんな学年の子が自分の決めた時間に来て、自分の決めた時間に帰る。学校には行くけども、授業に出るのともクラスに入るのとも違う部屋だと聞いている。

【市長】本当に個別で、静かなところで授業を受けなくちゃならない環境でありながら、そんな形に現状なっていないということか。

【参加者】そこが難しい所、発達障害というわけでもなく、ボーダーにもかからない、ひとつだけとても苦手な部分があって、そこが周りについていけない。クラス全体が怒られてるのに、自分だけが怒られてる様に感じたりして、大人数がこわくなってしまう。先生も判断が難しく、この子は別室で授業を受けなきゃいけない、とはならない。リモート授業での対応など学校も環境をいろいろ整えてくださり、学校側もいろいろされているんだけど、そこまでは難しい。

○保護者への情報発信について

【参加者】保護者も子どものためにできることが無いかいろいろな情報を探しているが、学校の先生からは情報がない。確かに先生からピンポイントでその方だけにお伝えするのは、多分伝えづらいと思う。でも、行くか行かないかは本人の意志だと思うので、伝えてもらえたらと思う。そういうところで学校と繋がってない、情報がない現実がある。いろんな研修会や勉強会が開催されていることを、保護者に伝えてほしい。

決して教育委員会で主催して欲しいわけではなく、いろんな場所でやっている情報を、伝えていただきたい。保護者の方も、子どもへの接し方などいろいろな研修を受ける機会があれば、それぞれの方が知りたいか知りたくないかは別として、そういったことを学べる場所があることが良いと思う。

【市長】保護者の皆さんが研修を受けられるのは、私も良いと思う。ただ中には、自分の状況を周囲には知られたくない方もいるから、あまりそういった研修会をやっても集まらないのではないかという意見もあるので、そこはどうなのかとも思っている。今日参加い

ただいている皆さんは、知りたいことが明確なので、こちらじゃあこんな内容のことをすればいいんじゃないか、というのがわかる。保護者の方がどんな内容を求めているのか、皆さんそれぞれ関心がある話題は違うかもしれないのでなかなか難しいなと感じている。

【市長】今、市のいろんな情報が市民の皆さんにどうやったら伝わるか苦労している。防災行政無線の無線の内容なども LINE で流す用にしたりして、こういった会に出たときは、いつも皆さん友だち登録お願いします、と言っているが、なかなか増えていかない。こんなことを知ってもらいたいとか、こういう機会を設けますとかいろんな宣伝をしているんだけど、あんまり見てもらえていない現状です。

【参加者】そこはやっぱり自分の知りたい情報ではないから。あまりそこに興味がないという方もやっぱりいる。自分の欲しい情報に対しては、そのチラシを探しているとお聞きしている。情報提供をしないと、必要な方がキャッチもできない状況に今なっていると思う。

【参加者】必要な情報は先生からお渡ししていただきたいと思う。子どものことで困ってたら、良くしたいって思わない親なんていないと思う。保護者は最初は先生しか頼れない。きっと最初の相談する人は先生だと思う。

【市長】頻度の問題もあるとは思うが、決して学校でやっていないとは思っていない。実態を把握して、それぞれのお子さんのケースにどうやって対応するのか、調べたい。本当に来てもらえる、学校に通学してもらえるように、どういう形でできるのかやっていく。

○グレーゾーンの子どもへの対応について

【参加者】普通級に通いづらい子の為に、グレーゾーンの子の場合は通級ではなく別に教室を設けられないか。

【市長】保護者の方によっては、普通教室に通いたい、普通の子と一緒にしてほしいという要望も聞いている。そういう保護者さんも多いと思うがどうか。

【参加者】そういう方のほうが私も多いとは思う。でも実際通うと上手くいかない事が多い。そうなった時に、学期の途中でもクラスが変われるといいと思う。

【市長】多分そういう対応は現状されていると思っている、1人1人のその状況だとか、それから特性も見えて先生が対応しているはずだと思っている。

【参加者】学校では新学年が決まる4月に、クラスを決められて途中では変えられない。

【市長】学期の途中でやっぱり状態がついていけない、となったとすれば支援員が必ずフォローしていると思っている。

【参加者】現状は支援員が足りていないのだと思う。

【市長】学校によっては、年代を跨いで同じクラスに所属している。こっちでは算数をしていて、こっちでは図工をしている、そういう実状はあると思う。ただ、その子ども一人一人の状態を見ながら、この子はこっちがいいんじゃないか、この子はやっぱりこっちがいいんじゃないか、というところはしっかり見ているはずだと思っている。その子の状態を見ている中で、その期の途中、学期の始まりのときだけ対応するのではなくて、どういった形が良いか常に見ているはず。

○仮想空間の学校を作ることはできないか

【参加者】仮想空間の学校を作ってもらえないかと思っている。人に会うのが怖くなって、学校に行けない子たちが通える場所があると良い。教育委員会に話してすぐにできると思っていないけれども、そういう先進的な取り組みが能美市なら実現するんじゃないかと思っている。

【市長】仮想化もこういう参考事例がある、と教えてもらえるとありがたい。どこの市がそれを取り入れているかを教えてもらえればこちらも調べられる。

○閉会